

# 2019年度 学びづくり部 活動計画

## 1 研究主題 研究教科（国語・算数）

汎用的な能力を育成するためのカリキュラムと授業開発  
～「レインボータイム」の実践を活かした各教科等における授業作りを通して～

## 2 主題設定の趣旨

これからの未来は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっていると考えられる。

そのような未来を拓き、生き抜く子どもたちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができる力を身に付けさせていくことが求められている。

新学習指導要領では、これまでも合言葉であった「生きる力」を育成すべき資質・能力として、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の3つの柱で具体化され、各教科等の目標や内容についても再整理がなされた。児童が学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を取り組むとともに、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することが単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して行うことについて、これまで以上に取り組んでいく必要があると考える。

本校では、平成28年度より3年間、元文部科学省調査官・前京都女子大学教授 井上一郎先生のご指導のもと、「主体的・対話的で深い学び」の視点を大切にしながら、各教科等における記述力の土台となる汎用的な能力を系統的に育成するために「レインボータイム」を設定し、カリキュラムと授業開発に取り組んできた。その成果として、ねらいや条件に沿った記述、読み手が分かりやすい表現・記述を意識する児童が増え、教師自身も様々な教科等で汎用的な能力を意識して指導を行うことができるようになってきた。さらに、「レインボータイム」での学びを教科等の学習の中で児童自ら効果的に活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現するような単元、及び授業開発に取り組んでいく必要があると考える。

そこで、本年度からは、国語・算数を研究教科として設定し、汎用的な能力の習得・活用のためのレインボータイムとの関連を明確にしたカリキュラム、及び授業の改善に取り組んでいく。学びの場面においては、以下のような子どもの姿を目指して、取り組んでいきたい。

○子どもが主体的に課題解決に向かい、見通しをもって追求していく中で、自分の学びを振り返りながら、次の学びにつなげていくことができる姿（主体的な学び）

○課題の解決に向け、自己の考えをもとに話し合うことを通して、最善解をつくり出すことができる姿（対話的な学び）

○各教科等の「見方・考え方」を働かせながら問題を追求し、自らの思考過程を振り返ることを通して、新たな発見やその意味を見出していく姿。（深い学び）

これらの姿を目指して授業開発に取り組むことで、レインボータイムでの学びが各教科等の学習で、各教科等での学びがレインボータイムでというように、それぞれの学びで生かされるようなカリキュラムへと改善を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

### 3 研究の目標

自ら汎用的な能力を習得・活用するとともに、そのよさを実感しながら、目的や条件に応じて自己の考えを分かりやすく記述することができる子どもを育てる。

### 4 研究の仮説

「レインボータイム」を中心に、以下のことに取り組めば、自ら汎用的な能力を習得・活用するとともに、そのよさを実感しながら、目的や条件に応じて自己の考えを分かりやすく記述することができる子どもを育てることができるであろう。

### 5 研究の内容と方法

- (1) 各教科等における記述力の土台となる汎用的な能力を育成するための授業づくり
  - ア 汎用的な能力についての理論研究
  - イ 各教科を貫く記述の土台となる汎用的な能力の洗い出し
  - ウ 「レインボータイム」での学び生かした各教科・領域における汎用的な能力を育成する単元、及び授業開発と実践
- (2) 「レインボータイム」と各教科・領域との関連を明確にしたカリキュラムづくり
- (3) 汎用的な能力を育成するための言語環境づくり

### 6 授業づくりの視点

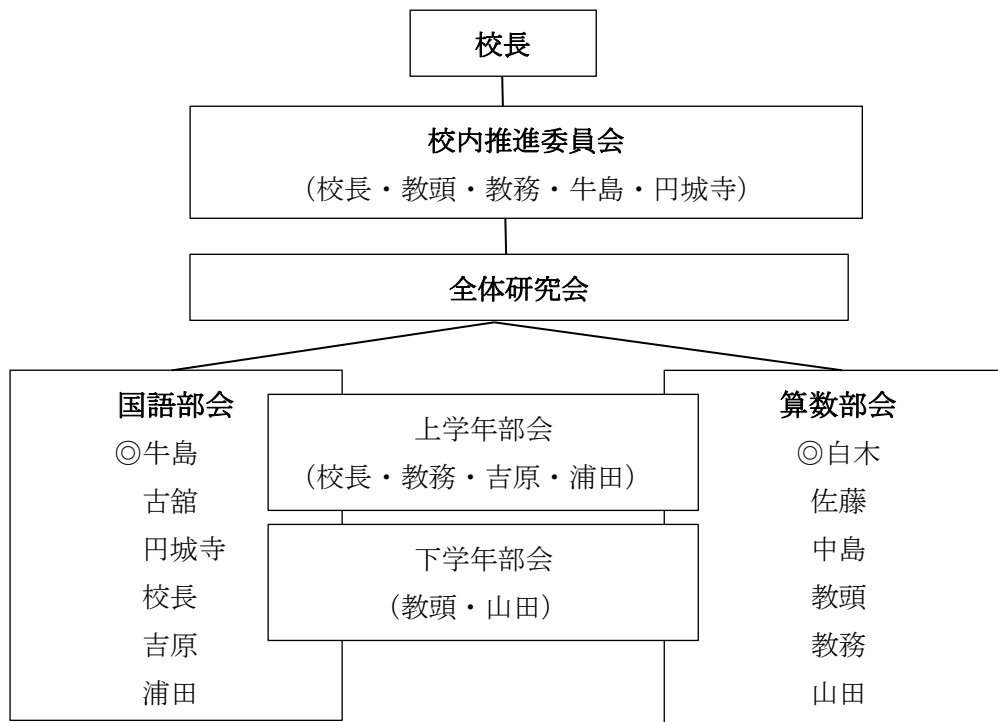
本年度は、特に「主体的な学び」を生み出すことに重点を置き、以下に示す4点を授業作りの視点として設定する。

- (1) 主体的な学びを生み出す単元構成と課題設定の工夫
- (2) 「レインボータイム」との関連づけを明確にした単元構成
- (3) 主体的な学びを支える教材開発
- (4) 自らの学びを自覚化する振り返りの場の工夫

## 7 研究の効果

- (1) 自ら汎用的な能力を習得・活用するとともに、そのよさを実感しながら、目的や条件に応じて自己の考えを分かりやすく記述することができるようになる。
- (2) レインボータイムと各教科・領域との関連を明確にしなが、各教科等における記述力の土台となる汎用的な能力を育成するための授業づくり、環境づくりについての教師の意識

## 8 研究の組織



## 9 校内研究年間計画

月	校内研究内容
4	2日(火) 全体会 (今年度の研究の概要、目標、仮設、授業の進め方の提案) 10日(水) 全体会 (授業づくりの視点の詳細説明、グループワークの進め方の検討及び決定)
5	7日(火) 研究推進委員会 8日(水) 全体会 (単元構想、導入学習の仕方、学習課題や学習計画立て方) 27日(月) 研究推進委員会
6	12日(水) 学年部会研修 (指導案、ワークシート検討) 18日(火) 全体会 (提案授業研修) 講師: 青山知佐子先生
7	19日(金) 全体会 (指導案作成の留意点)
8	5日(月) 個人研修 (指導案作成) 21日(水) 専門部会研修 (指導案・ワークシート検討) 26日(月) 全体会 (理論研修及び指導案ご指導) 講師: 井上一郎先生

9	4日(水) 全体会(思考ツールの活用方法、個人研修) 30日(月) 研究推進委員会
10	9日(水) 専門部会研修(指導案・ワークシート検討) 28日(月) 研究推進委員会 30日(水) 個人研修(指導案作成)
11	6日(水) 全体会(授業研修) 講師:井上一郎先生 27日(水) 授業研の振り返り、授業改善の協議
12	25日(水) 全体会(学力向上研修)
1	29日(水) 校内研究のまとめ
2	3日(月) 研究推進委員会 5日(水) 次年度の方向性、年間カリキュラム加除修正
3	11日(水) 次年度に向けて